

## P5-2 原理に基づく理学療法 (Principle Based Physical Therapy : PBPT) というメタ理論の提案

○米元 佑太(よねもと ゆうた)<sup>1)2)</sup>, 京極 真<sup>1)</sup>

1) 吉備国際大学大学院 保健科学研究科, 2) 東大阪山路病院 リハビリテーション科

Key word : メタ理論, 原理, 共約不可能性

**【目的】** 理学療法は、ICU などの超急性期から訪問、予防、動物など多様なフィールドで実施されている。その際、理学療法士は様々な理論や自身の臨床経験などに依拠しながら、目標を設定し、介入を選択している。しかし、理学療法は、専門性が多岐にわたることで共約不可能性が生じている。共約不可能性とは異なる理論体系で共通する基盤が存在しない問題である。その弊害は、領域毎に異なる理学療法観が乱立し、「どのような理学療法がよい理学療法か」という問いに対して明確な答えが得られない事態に陥ることである。本論の目的は、共約不可能性を解消できる「理学療法のメタ理論」を構築することとした。

**【方法】** 理論研究の一種であるメタ理論工学を用いて、共約不可能性を克服する理学療法のメタ理論を構築した。理論構築の方略は①全理学療法の実践に共通する理路を整備すること、②理学療法の核となる身体論を根底から基礎づけること、に焦点化した。①と②は共約不可能性の壁を越えるために、立場が違っていても理解できる「原理」になるように論証した。

**【説明と同意】** 理論研究のため説明と同意はない。

**【結果】**

### ①全理学療法の実践に共通する理路

哲学的に実践を洞察すると、ある状況と目的のもとで確率的に遂行されるという理路を導くことができる。これは「実践の原理」と呼ばれ、状況や目的から切り離された理学療法や事前に有用性を確定した理学療法を想定できないことから、全理学療法実践に妥当しうるものであると考えられた。したがって本論では全ての理学療法の実践に共通する理路として「理学療法は、何らかの状況と目的に応じて遂行され、その有用性は事後的に決まる」という命題を設定した。

### ②理学療法の核となる身体論の基礎づけ

次に哲学的に身体論を洞察すると、主に現象学で展開された身体論が共約不可能性の壁を越える可能性があることがわかった。現象学的身体論は、あらゆる身体論を基礎づけるために、身体とは主観と客観の両方が同時に成立する場であり、人間における存在可能性の根拠でありつつ、世界と人間をつなぐ媒体でもあり、情状性 = 気分と相関的に構成される対象でもあるという議論を展開している。本論では、フッサール、ハイデガー、メルロ＝ポンティらの現象学的身体論を踏まえつつ、さらに洗練することによって「身体は気分相関的

に構成された媒体であり、それは世界と主体を繋ぐものであると同時に、主体の可能性を担保しつつ制約する構造である」という「身体の原理」を定式化した。理学療法では、主体の可能性を確保するために実施され、それによって主体のありうる未来をめがけることになる。つまり、主体が選択しうる可能性をひらくことが、理学療法の実践的特性であるといえる。したがって、全ての理学療法に共通する目的は「対象の選択可能性を確保すること」であると導出できる。

以上を踏まえ、本論では「理学療法とは何らかの状況で、対象の選択可能性の確保を目的として、身体に介入することであり、その有用性は事後的に決まる」と定式化し、それを「原理に基づく理学療法 (Principle Based Physical Therapy : PBPT)」と命名した。

**【考察】** PBPT は、あらゆる理学療法は状況と目的に応じて遂行し、その有用性は事後的に決まると定位している。理学療法は医療、保健、福祉、動物などのフィールドで実践されているが、状況と目的にまったく無関係なものではなく、あらかじめ有用性が確定することもない。つまり本論で定式化した PBPT は全ての理学療法に例外なく妥当する可能性の理路であると考えられる。このことにより、PBPT は従来の理学療法の可能性を十全に引き出す機能を持つと考えられる。また PBPT は上記の定式から「よい理学療法とは何か」という問いに対して、「対象の選択可能性を確保するという目的の達成に貢献できた理学療法がよい理学療法である」という回答を導出できた。したがって PBPT はあらゆる理学療法に対し価値判断の基準を提供できると考えられた。さらに、PBPT は身体論を明確に基礎づけているため、理学療法の核を明確にしておき、対象の認識における共約不可能性を解消している。PBPT の原理性を吟味するには、「状況や目的に全く無関係な理学療法は存在するか」と問うと良い。その結果、例外なく PBPT の理路が妥当すると確認できれば、原理性のある理路であると判断できる。このように、理論の評価方法を組み込んだ所にも PBPT の利点がある。したがって、PBPT は人間や動物などといった対象の違いに関係なく、過去から現在、そして未来にわたって理学療法領域を基礎付けるメタ理論であるといえる。

**【理学療法研究としての意義】** PBPT は理学療法の価値判断の基準が明確化し、対象者へのより良い理学療法介入の可能性を開くと考えられる。